



平成22年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月10日

上場会社名 株式会社メディックグループ 上場取引所 東
 コード番号 2369 URL http://www.medibic.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 康弘
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 門井 豊 TEL (03) 6415-4031
 四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第3四半期の連結業績 (平成22年1月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第3四半期	165	△20.1	△190	—	△192	—	△205	—
21年12月期第3四半期	207	—	△542	—	△540	—	△525	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年12月期第3四半期	△1,149 30	—
21年12月期第3四半期	△2,984 06	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年12月期第3四半期	313	225	69.1	1,201 71
21年12月期	475	396	80.6	2,176 55

(参考) 自己資本 22年12月期第3四半期 216百万円 21年12月期 383百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年12月期	—	0 00	—	0 00	0 00
22年12月期	—	0 00	—	—	—
22年12月期(予想)	—	—	—	0 00	0 00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成22年12月期の連結業績予想 (平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	220	△17.3	△250	—	△250	—	△241	—	△1,357 00	

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 5「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

新規 一社

除外 一社

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

22年12月期3Q	180,542株	21年12月期	176,242株
22年12月期3Q	一株	21年12月期	一株
22年12月期3Q	178,465株	21年12月期3Q	176,242株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】P. 4「(3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 4
2. その他の情報	P. 5
(1) 重要な子会社の異動の概要	P. 5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	P. 5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	P. 5
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	P. 5
3. 四半期連結財務諸表	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書	P. 8
【第3四半期連結累計期間】	P. 8
【第3四半期連結会計期間】	P. 9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 10
(4) 継続企業の前提に関する注記	P. 11
(5) セグメント情報	P. 12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 14

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部企業の収益改善、個人消費持ち直し傾向など、一時期景気回復に兆しがみられたものの、不透明な海外経済に起因する急激な円高や企業の設備投資抑制などにより、先行きの不透明感を払拭できない状況のうちに推移いたしました。

当社を取り巻く環境におきましても、医療・研究機関における研究開発、設備投資抑制の動きが継続するなど、依然として厳しい状況が続いておりますが、当社グループでは、既存事業の営業強化及びコスト削減を中心に取り組みを進めつつ、今後の事業の柱として育成すべき新たなサービスソリューションの構築を図ってまいりました。

以上によりまして、当第3四半期連結累計期間における連結業績は以下のとおりとなりました。

	実績(千円)	対前年同期増減(千円)
売上高	165,433	41,858減
営業損失	△190,527	351,580減
経常損失	△192,654	348,042減
四半期純損失	△205,111	320,805減

<バイオマーカー創薬支援事業>

バイオマーカー創薬支援事業におきましては、PGx試験支援サービス、RNA増幅試薬の販売、情報処理システム開発、治験コーディネートサービスなど基盤技術であるPGx技術又はそれに関連する事業を推進しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、主にPGx試験支援サービスの主体となる検体バンキングサービス、受託解析、自社開発ソフトウェア(検体管理システム、二次匿名化システム、配合設計データベース)の販売及びRNA増幅試薬販売などの営業を、大手製薬メーカー、医療・研究機関を中心に積極的に行いました。又、第2四半期連結会計期間におきまして納期ずれとして未計上でありました検体管理システム開発につきまして検収を終了し、売上計上しております。

以上によりまして、バイオマーカー創薬支援事業の売上高は103,117千円、営業利益は5,315千円となりました。

<創薬事業>

創薬事業におきましては、Threshold Pharmaceuticals, Inc. (スレッシュホールド社) との間で締結した「共同開発契約」に基づく、抗がん剤「Glufosfamide (グルフォスファミド)」の日本を含めたアジア地域における開発及び販売を行うための臨床開発を中心に事業を推進し、日本国内第I相臨床試験を終了しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、国内での変動はなかったものの、米国での開発に大きな進展がみられました。米国におきましては平成21年10月にスレッシュホールド社よりグルフォスファミドの開発権利の譲渡を受けたEleison Pharmaceuticals, Inc. (エリソン社) が第III相臨床試験に関するSpecial Protocol Assessment (SPA) をFDA (米国食品医薬品局) に提出し、これが受理されました。エリソン社による第III相臨床試験は、以前、米国においてスレッシュホールド社が行った第III相臨床試験の結果に基づいて有効性を示すことができるとされる集団に対しての試験が計画されているもので、本試験の担当責任医師にはエール大学 Howard S. Hochster教授が就任することとなりました。又、

本試験はグルフォスファミドを第2選択(2nd-Line)治療薬として評価するもので、期間として2011年第1四半期に本試験を開始し、2012年に終了することが予定として明らかにされました。

これらエリソン社における米国での第Ⅲ相臨床試験の再開により、グルフォスファミドのさらなる開発進展の可能性が高まっております。当社グループといたしましても、引き続き中国を含めたアジア諸国の製薬メーカー等に共同開発あるいはライセンスアウト等の交渉を行っていく予定であります。

以上によりまして、創薬事業の売上高の計上はありません。

<テーラーメイド健康管理支援事業>

テーラーメイド健康管理支援事業におきましては、基盤技術における経験やノウハウをベースとした個人向け健康・医療市場におけるサービスの提供を中心に事業を推進しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、PGx事業や『DNAプライベートバンク』サービスにおけるノウハウを活用した新たな個人向け健康管理支援サービスとして、『おくすり体質検査』サービスの技術開発及びビジネススキームの構築を進め、特許出願にまで至っております。この新規サービスは、BtoBtoCモデルとして医療機関を通じて広く一般の個人の方に薬物物質に関する遺伝子検査及びその結果情報などをご提供するもので、予め自身の《薬物代謝の能力》を知ることによって、薬の効果が得られない、副作用が発生するなどのリスクを予防することを目的に、肝薬物代謝酵素(CYP)のなかで主要な4つの酵素の遺伝子タイプ(CYP1A2、CYP2C9、CYP2C19、CYP2D6)を検査し、一人ひとりの薬剤の有効性や副作用に対して予知する際の目安となる情報をご提供するサービスです。

当社グループにおきましては、かかる新規サービスの収益化及び拡大を図り、事業収益の柱の一つとするべく育成してまいります。

以上によりまして、テーラーメイド健康管理支援事業の売上高は4,487千円、営業損失は23,642千円となりました。

<投資・投資育成事業>

投資・投資育成事業におきましては、営業投資有価証券の売買、ファンドの運営管理、投資助言を行っております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、既存のファンドの運営管理、投資助言のほか、営業投資有価証券の売却を進めてまいりましたが、株式市場の低迷が依然として続くなか、投資先企業の業績不振などによる証券の流動性悪化、売買価格の下落など、売却交渉は厳しい状況で推移いたしました。

以上によりまして、投資・投資育成事業の売上高は57,828千円、営業損失55,603千円となりました。

<その他事業>

特記すべき売上計上はございません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は313,829千円となり、前連結会計年度末に比べ161,966千円減少いたしました。主な要因といたしましては、現金及び預金の減少19,921千円、営業投資有価証券の減少97,462千円、投資有価証券の減少10,710千円、敷金及び保証金の減少18,866千円によるものであります。

負債は87,942千円であり、主に前受金の増加10,738千円、未払費用の減少9,338千円、未払法人税等の減少4,146千円、その他流動負債の増加14,350千円により、前連結会計年度末に比べ8,696千円の増加となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ170,663千円減少し、225,887千円となりました。これは新株予約権の行使に伴い資本金及び資本剰余金がそれぞれ22,324千円ずつ増加したこと、四半期純損失205,111千円の計上によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、第2四半期連結会計期間末に比べ24,582千円減少し、12,093千円となりました。当第3四半期連結累計期間の概況は次のとおりであります。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは73,542千円の支出となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失203,599千円及び営業投資有価証券の減少94,761千円、投資損失引当金の増加4,545千円、売上債権の減少8,035千円によるものであります。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは、11,396千円の収入となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出5,814千円、貸付による支出10,000千円、敷金及び保証金の回収による収入19,011千円、関係会社出資金の分配による収入6,907千円によるものであります。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは、42,202千円の収入となりました。これは、新株予約権の行使による株式の発行による収入42,280千円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年8月10日付「特別利益(投資有価証券売却益)の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」におきまして公表いたしました平成22年12月期の連結業績予想数値のとおりであります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している資産については、当連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。
2. 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	法人税等の納付税額の算定並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定に関して、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、前連結会計年度まで継続して営業損失、経常損失、当期純損失、及び営業活動によるキャッシュ・フローにおきまして継続してマイナスを計上しており、当第3四半期連結累計期間におきましても営業損失190,527千円、経常損失192,654千円、四半期純損失205,111千円、営業キャッシュ・フロー△73,542千円を計上するに至っております。

当社グループにおきましては、当該状況を解消すべく、安定した財務基盤の確立に向けて「事業収益の拡大」および「資産のキャッシュ化」を経営の柱として取り組んでおります。

しかしながら、現時点におきましては、未だ各種施策の実施途上であり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,093	32,015
受取手形及び売掛金	15,046	23,081
営業投資有価証券	224,792	322,255
投資損失引当金	△39,789	△35,243
商品及び製品	813	777
仕掛品	27,440	29,144
貯蔵品	721	6,632
株主、役員又は従業員に対する短期貸付金	10,000	—
その他	14,584	20,497
貸倒引当金	△4,810	△4,810
流動資産合計	260,893	394,349
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	5,270	490
有形固定資産合計	5,270	490
無形固定資産		
その他	144	144
無形固定資産合計	144	144
投資その他の資産		
投資有価証券	22,903	33,613
出資金	14,531	16,030
関係会社出資金	—	522
敷金及び保証金	10,728	29,595
その他	2,894	4,586
貸倒引当金	△3,535	△3,535
投資その他の資産合計	47,522	80,812
固定資産合計	52,936	81,446
資産合計	313,829	475,796

(単位:千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	189	3,095
未払費用	9,806	19,145
未払法人税等	4,074	8,220
前受金	46,421	35,682
受注損失引当金	—	1,884
その他	25,566	11,216
流動負債合計	86,057	79,245
固定負債		
受注損失引当金	1,884	—
固定負債合計	1,884	—
負債合計	87,942	79,245
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,080,715	2,058,391
資本剰余金	2,613,912	2,591,588
利益剰余金	△4,408,559	△4,203,447
株主資本合計	286,069	446,532
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△69,110	△62,932
評価・換算差額等合計	△69,110	△62,932
新株予約権	8,379	12,265
少数株主持分	549	685
純資産合計	225,887	396,550
負債純資産合計	313,829	475,796

(2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
売上高	207,291	165,433
売上原価	346,003	157,469
売上総利益又は売上総損失(△)	△138,712	7,963
販売費及び一般管理費	403,395	198,490
営業損失(△)	△542,107	△190,527
営業外収益		
受取利息	282	62
為替差益	1,519	0
その他	1,455	369
営業外収益合計	3,257	431
営業外費用		
支払利息	147	—
持分法による投資損失	1,422	—
賃借料	—	1,596
その他	276	962
営業外費用合計	1,846	2,558
経常損失(△)	△540,697	△192,654
特別利益		
投資損失引当金戻入額	—	2,160
新株予約権戻入益	—	1,518
受注損失引当金戻入額	11,400	—
特別利益合計	11,400	3,678
特別損失		
固定資産売却損	26	—
固定資産廃棄損	—	165
本社移転費用	—	9,010
投資有価証券売却損	—	5,447
特別損失合計	26	14,623
税金等調整前四半期純損失(△)	△529,323	△203,599
法人税、住民税及び事業税	1,515	1,533
法人税等合計	1,515	1,533
少数株主損失(△)	△4,922	△22
四半期純損失(△)	△525,916	△205,111

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	34,022	29,849
売上原価	225,525	29,882
売上総損失(△)	△191,503	△32
販売費及び一般管理費	123,168	56,099
営業損失(△)	△314,671	△56,132
営業外収益		
受取利息	48	21
為替差益	1,021	0
その他	302	106
営業外収益合計	1,372	128
営業外費用		
支払利息	3	—
持分法による投資損失	707	—
その他	75	62
営業外費用合計	786	62
経常損失(△)	△314,085	△56,067
特別利益		
新株予約権戻入益	—	389
特別利益合計	—	389
特別損失		
固定資産売却損	26	—
特別損失合計	26	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△314,111	△55,678
法人税、住民税及び事業税	505	511
法人税等合計	505	511
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△4,912	19
四半期純損失(△)	△309,704	△56,209

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△529,323	△203,599
減価償却費	5,114	1,035
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4,810	—
投資損失引当金の増減額(△は減少)	10,825	4,545
受注損失引当金の増減額(△は減少)	△11,400	—
受取利息	△282	△62
支払利息	147	—
為替差損益(△は益)	△1,519	58
持分法による投資損益(△は益)	1,422	—
投資事業組合等損益(△は益)	—	248
投資有価証券評価損益(△は益)	216,181	—
投資有価証券売却損益(△は益)	—	5,447
有形固定資産売却損益(△は益)	26	—
本社移転費用	—	9,010
売上債権の増減額(△は増加)	43,855	8,035
たな卸資産の増減額(△は増加)	7,608	1,572
営業投資有価証券の増減額(△は増加)	5,939	94,761
仕入債務の増減額(△は減少)	△21,084	△2,906
その他	△7,953	11,326
小計	△275,631	△70,526
利息及び配当金の受取額	282	62
利息の支払額	△147	—
法人税等の支払額	△2,251	△3,078
営業活動によるキャッシュ・フロー	△277,748	△73,542
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△423	△5,814
有形固定資産の売却による収入	7	—
無形固定資産の取得による支出	△2,340	—
投資有価証券の売却による収入	—	3,000
株主、役員又は従業員に対する貸付による支出	—	△10,000
貸付金の回収による収入	1,675	1,692
敷金及び保証金の差入による支出	—	△3,400
敷金及び保証金の回収による収入	23,769	19,011
関係会社出資金の分配による収入	12,750	6,907
投資活動によるキャッシュ・フロー	35,438	11,396
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△2,216	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	42,280
少数株主への配当金の支払額	—	△78
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,216	42,202
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,314	22
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△243,211	△19,921
現金及び現金同等物の期首残高	286,783	32,015
現金及び現金同等物の四半期末残高	43,571	12,093

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

当社グループは、前連結会計年度まで継続して営業損失、経常損失、当期純損失、及び営業活動によるキャッシュ・フローにおきまして継続してマイナスを計上しており、当第3四半期連結累計期間におきましても営業損失190,527千円、経常損失192,654千円、四半期純損失205,111千円、営業キャッシュ・フロー△73,542千円を計上するに至っております。

当社グループにおきましては、当該状況を解消すべく、安定した財務基盤の確立に向けて「事業収益の拡大」および「資産のキャッシュ化」を経営の柱として取り組んでおります。

しかしながら、現時点におきましては、未だ各種施策の実施途上であり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	バイオマーカー創薬支援事業(千円)	創薬事業(千円)	テーラーメイド健康管理支援事業(千円)	投資・投資育成事業(千円)	その他事業(千円)	計(千円)	消去又は全社(千円)	連結(千円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	14,874	—	11,365	7,782	—	34,022	—	34,022
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	14,874	—	11,365	7,782	—	34,022	—	34,022
営業損失(△)	△3,260	△226	△22,644	△211,832	—	△237,963	△76,708	△314,671

(注) 1 事業の区分は、当社ビジネス形態の特性を考慮して区分しております。

2 各区分の事業の内容

- (1) バイオマーカー創薬支援事業 …… バイオマーカーを用いた新薬開発を総合的、複合的に支援するソリューションを提供するもの。受託解析サービス、データ解析サービス、研究支援プロダクトの販売、システム構築、治験コーディネイトサービス、及び、PGx試験サポート業務。
- (2) 創薬事業 …… 自社保有の新薬候補化合物を当社のデータマイニング技術を用いて開発し、付加価値を高めていくもの。
- (3) テーラーメイド健康管理支援事業 …… 個人を対象に健康・医療市場でのサービスを提供するもの。クリニックとの提携によるDNA検査に基づく健康支援サービス、及び、健康支援プロダクト販売。
- (4) 投資・投資育成事業 …… ファンドの管理運営、営業有価証券売買等。
- (5) その他事業 …… 研究者を対象とするセミナーやフォーラム等の開催等。

当第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

	バイオマーカー創薬支援事業(千円)	創薬事業(千円)	テーラーメイド健康管理支援事業(千円)	投資・投資育成事業(千円)	その他事業(千円)	計(千円)	消去又は全社(千円)	連結(千円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	23,300	—	—	6,548	—	29,849	—	29,849
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	23,300	—	—	6,548	—	29,849	—	29,849
営業損失(△)	△2,602	△61	△10,872	△9,345	—	△22,881	△33,251	△56,132

(注) 1 事業の区分は、当社ビジネス形態の特性を考慮して区分しております。

2 各区分の事業の内容

- (1) バイオマーカー創薬支援事業 …… バイオマーカーを用いた新薬開発を総合的、複合的に支援するソリューションを提供するもの。受託解析サービス、データ解析サービス、研究支援プロダクトの販売、システム構築、治験コーディネイトサービス、及び、PGx試験サポート業務。
- (2) 創薬事業 …… 自社保有の新薬候補化合物を当社のデータマイニング技術を用いて開発し、付加価値を高めていくもの。
- (3) テーラーメイド健康管理支援事業 …… 個人を対象に健康・医療市場でのサービスを提供するもの。クリニックとの提携によるDNA検査に基づく健康支援サービス、及び、健康支援プロダクト販売。
- (4) 投資・投資育成事業 …… ファンドの管理運営、営業有価証券売買等。
- (5) その他事業 …… 研究者を対象とするセミナーやフォーラム等の開催等。

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)

	バイオマーカー創薬支援事業 (千円)	創薬事業 (千円)	テーラーメイド健康管理支援事業 (千円)	投資・投資育成事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	116,040	—	60,411	30,839	—	207,291	—	207,291
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	116,040	—	60,411	30,839	—	207,291	—	207,291
営業利益又は 営業損失(△)	1,967	△1,125	△59,962	△233,816	—	△292,937	△249,170	△542,107

(注) 1 事業の区分は、当社ビジネス形態の特性を考慮して区分しております。

2 各区分の事業の内容

- (1) バイオマーカー創薬支援事業 …………… バイオマーカーを用いた新薬開発を総合的、複合的に支援するソリューションを提供するもの。受託解析サービス、データ解析サービス、研究支援プロダクトの販売、システム構築、治験コーディネイトサービス、及び、PGx試験サポート業務。
- (2) 創薬事業 …………… 自社保有の新薬候補化合物を当社のデータマイニング技術を用いて開発し、付加価値を高めていくもの。
- (3) テーラーメイド健康管理支援事業 …………… 個人を対象に健康・医療市場でのサービスを提供するもの。クリニックとの提携によるDNA検査に基づく健康支援サービス、及び、健康支援プロダクト販売。
- (4) 投資・投資育成事業 …………… ファンドの管理運営、営業有価証券売買等。
- (5) その他事業 …………… 研究者を対象とするセミナーやフォーラム等の開催等。

当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

	バイオマーカー創薬支援事業 (千円)	創薬事業 (千円)	テーラーメイド健康管理支援事業 (千円)	投資・投資育成事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	103,117	—	4,487	57,828	—	165,433	—	165,433
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	103,117	—	4,487	57,828	—	165,433	—	165,433
営業利益又は 営業損失(△)	5,315	△321	△23,642	△55,603	—	△74,252	△116,274	△190,527

(注) 1 事業の区分は、当社ビジネス形態の特性を考慮して区分しております。

2 各区分の事業の内容

- (1) バイオマーカー創薬支援事業 …………… バイオマーカーを用いた新薬開発を総合的、複合的に支援するソリューションを提供するもの。受託解析サービス、データ解析サービス、研究支援プロダクトの販売、システム構築、治験コーディネイトサービス、及び、PGx試験サポート業務。
- (2) 創薬事業 …………… 自社保有の新薬候補化合物を当社のデータマイニング技術を用いて開発し、付加価値を高めていくもの。
- (3) テーラーメイド健康管理支援事業 …………… 個人を対象に健康・医療市場でのサービスを提供するもの。クリニックとの提携によるDNA検査に基づく健康支援サービス、及び、健康支援プロダクト販売。
- (4) 投資・投資育成事業 …………… ファンドの管理運営、営業有価証券売買等。
- (5) その他事業 …………… 研究者を対象とするセミナーやフォーラム等の開催等。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)並びに前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店はありませんので、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

当第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

	アジア	計
I 海外売上高(千円)	4,641	4,641
II 連結売上高(千円)	—	29,849
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	15.6	15.6

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

	アジア	計
I 海外売上高(千円)	49,387	49,387
II 連結売上高(千円)	—	165,433
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	29.9	29.9

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、当第3四半期連結累計期間において新株予約権及びストック・オプションの一部行使による払い込みを、下記内容にて受けております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,080,715千円、資本剰余金が2,613,912千円となっております。

(単位：千円)

種類	権利行使者	権利行使日	資本金	資本剰余金
新株予約権	Evolution Master Fund LP	平成22年4月15日	15,226	15,226
ストック・オプション	安岡 博之	平成22年5月14日	2,022	2,022
新株予約権	Evolution Master Fund LP	平成22年8月4日	5,075	5,075
合計			22,324	22,324